

interview

細かい所作が多く、覚えるのが難しかった



橋階 はるさん

平泉中学校3年A組

郷土芸能に興味があったため、郷土芸能体験講座を通じて今年初めて達谷窟毘沙門神楽を習いました。実際に神楽を舞ってみると、細かい所作が多く、覚えるのが難しかったです。また上下の動きなども多いので足がとても疲れました。

interview

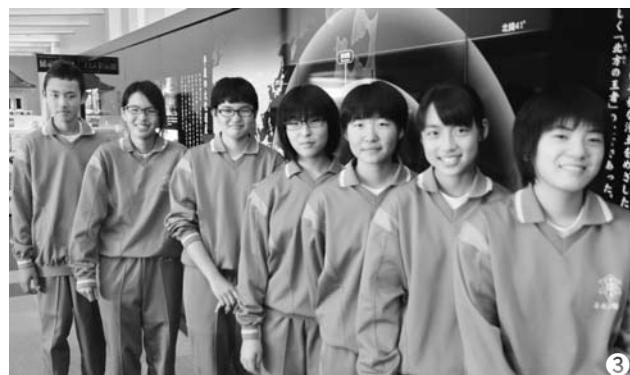
神楽を舞うには体力も必要だと感じた



浅利 寅之介さん

平泉中学校1年A組

首を動かしながら扇子を動かすなど、複数の所作を同時に実施しなくてはならない場面もあり、動き方を覚えるのに苦労しました。また実際に舞ってみると、息切れするぐらい疲れるので、神楽には体力も必要だと感じました。



①、②_練習中は生徒たちの笑顔が多く見え、楽しさが伝わってきた／③_本年度の講座を受講した平泉中の生徒7人

「平泉」世界遺産登録5周年記念イベント
第7回世界遺産学習全国サミット in ひらいずみ

- 日時…11月5日(土) 9:30~17:00
- 場所…平泉町立平泉小学校
- スケジュール
 - 9:30~11:50 分科会発表
 - 13:10~ エキシビジョン
(平泉中学生による「御神楽」など)
 - 14:00~ 世界遺産学習実践発表
 - 15:00~ 記念講演
- 問い合わせ先…教育委員会 ☎46-5576



道具の持ち方や作法、実際の所作など覚えることは多い



集団での演舞の完成を目指し、繰り返し所作の確認を行う

時代や社会情勢が変化していても、受け継がれてきた郷土芸能の楽しさ、魅力は変わらなない。郷土芸能を伝承するためには、いかに子どもたちがそれに触れる機会をつくるのができるか、いかに発表する場をつくれるかが大切である。

生徒たちに同神楽を体験した感想を尋ねると「覚えることが多くて大変。動作が複雑で体力を使うけど、実際にやってみるとすごく楽しかった」と全員が笑って話す。

郷土芸能を伝承していくために必要なこと

講座は月1、2回のペースで計10回程度開催され、奉納神楽の最初に舞う「御神楽」の習得を目指す。受講する生徒は11月5日に開催される世界遺産学習全国サミット in ひらいずみのエキシビジョンに出演し、地域の伝統芸能を全国に発信することとなる。そのため生徒たちは集団での演舞に向けて、真剣な表情で練習に取り組んでいる。

郷土芸能を伝承していただくために必要なこと

郷土を愛し、地域の文化を継承する心を育てる必要があると考えた町教育委員会が、生徒が郷土芸能に触れるきっかけになればと講座を開き、伝承活動が再開したのである。

郷土を愛し、地域の文化を継承する心を育てる講座

2015年度から平泉中学校生徒を対象とした郷土芸能体験講座(町教育委員会主催)が、同校柔剣道場で開講した。これは達谷窟毘沙門神楽を習得する講座であり、15年度は5人、16年度は新たに2人を迎え、現在13年生7人が受講している。

達谷窟毘沙門神楽は、1993年から同校の選択教科の伝承芸能で神楽を教えていたが、数年前に伝承活動が停止。郷土芸能を次世代に継承するために

第3章

体験することで神楽の魅力が伝わる
郷土芸能体験講座を開始

かつて神楽は私たちの身近にある存在であった。しかし近代になり、テレビやインターネットなどの娯楽が普及し始めたことで人々は神楽への興味が薄れ、神楽を舞うことも少なくなっていくってしまった。神楽をはじめ郷土芸能は、失ってからは取り戻すことができない地域の大切な文化であり、貴重な宝である。

町では昨年度から郷土芸能体験講座を通じて、中学生への神楽の伝承活動を再開した。郷土芸能を次世代に継承するためには、まずは子どもたちがじかに触れる必要がある。「ちょっと神楽に興味があったから受講してみた」。小さなきっかけだが、神楽を舞うという大きな一歩を踏み出した7人の平泉中学校生徒。その姿を追う。



体験講座では神楽の基本的な動作から教わる